

# 1. 評価報告概要表

作成日平成22年 3月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1090700061
法人名	医療法人六花会
事業所名	グループホームあんず
所在地	館林市代官町8番地15号 (電話) 0276-80-2777

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成22年2月22日

## 【情報提供票より】(平成22年 2月 4日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人 非常勤 3人 常勤換算	4.6人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 1,100円		

### (4)利用者の概要( 2月 4日現在 )

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 歳	最低	67歳	最高	96歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	館林記念病院 ・ コスモス歯科
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな住宅街に位置しており、系列の病院や老人保健施設、訪問看護ステーション等が歩いていける所にあり、医療連携が十分図られて医療面で安心して暮らせることに本人や家族の満足度は高い。ケアは、利用者を家族として考えて対応することが方針とされており、利用者を尊敬する職員の態度は穏やかである。職員異動は少なく、利用者は馴染みの関係で暮らすことができている。また、専門性を高めるための学習を様々な機会を通して行っており、資格試験にチャレンジするものもいる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で玄関の施錠について指摘されているが、指定認知症対応型デイサービスと同じ玄関を使用しており、グループホームだけの意向で鍵を外すことはできない。しかし、状況を見て鍵をかけない取り組みを行っており、前向きに鍵をかけないケアについて検討されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホームは、外部評価に対して、ホームのケアを見直す機会と前向きにとらえており、今回の自己評価は前回の評価をふまえて管理者及び職員で取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に一度、区長、地域住民、家族、利用者、系列病院事務長、市の介護高齢課職員、ホーム職員、管理者の参加で会議を開催している。会議では、ホームでの利用者の状況や行事の報告を行い、意見交換し運営の参考にしている。玄関の鍵については、検討・話し合い、短時間から始めることにした。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>2ヶ月に1回開催される運営推進会議には、家族や利用者本人も参加してもらいホームの運営に関して意見交換を行っている。また、面会時や電話での受診時報告を利用して家族とコミュニケーションを図り、意見など話してもらっている。意見箱を設置し、いつでも意見を受ける姿勢を示している。出された意見は、職員会議で図り運営に反映している。また、運営推進会議でも報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加わり、回覧板を回してもらって地域の情報を得て、町内の行事に参加している。また、地域の行事にホームを提供している。防災訓練では近所の方の参加がある。また、運営推進会議に区長や地域住民にも参加してもらい、地域の中のホームとしての位置を確立しつつある。利用者や職員は地域の方と顔見知りになっており、会った時の挨拶は日常的に行われている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年10月に管理者と職員全員で、新たに地域密着型サービスとしての理念をつくりあげた。理念は、「1、あんずの家族として穏やかに生活できる。2、地域のつながりを大切にし、楽しく交流を図り、開かれた施設でありたい。3、見守り待つゆとりを持って、できることを見つけ支援する。」である。理念は、誰もが理解しやすいようにと、簡単な言葉で表現されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、理念の実現のために日々行っているケアが理念と整合性があるかを考えながら実践している。職員は、穏やかな暮らしの支援のために大きい声を出さない、イライラしない、待つゆとりを持つ、隠し事をしない、など細かなことまで話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加わり、回覧板を回してもらい地域の情報を入手して、できるだけ町内の行事に参加している。散歩では、よく地域の方に声をかけていただいている。また、地域のボランティアを受け入れたり、夏祭りには子ども神輿の休憩所としてホームを提供している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の外部評価は開設して3回目であるが、毎回評価を受けて職員全体で検討し、改善に向けて対応している。外部の者が評価することに対して、管理者も職員もケアを見直す良い機会であると前向きにとらえている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、開設以来2ヶ月に1度第3水曜日に開催している。参加者は、区長、地域住民、家族、利用者、法人病院の事務長、市の介護高齢課職員、管理者、職員であり、開催日を定時期に決めているためか参加状況がよい。会議で検討された内容は、すぐにサービスに反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、開設以来市の担当課に生活保護の方の受け入れや現物支給品について等さまざなことを相談し、アドバイスをを受けて運営している。また、市からの入居状況の確認に応じ、見学依頼などに対応している。行政と連携を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回発行の「あんず便り」を、家族に提供している。また、病院の受診後には必ず家族に連絡して状況を報告している。金銭管理は、通院でかかる医療費用を預かっており、家族の訪問のあったときに領収書を見せて清算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、面会時にコミュニケーションを十分に図って受けている。面会の少ない家族にも、病院受診後の報告時を利用して、コミュニケーションを図って意見を聞いている。また、意見箱も設置している。外部の相談窓口については、市に窓口があることを知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して3年経過で、1名が法人内異動、1名の希望退職があった。入居者には心配をかけないように説明し、ダメージが少ないように配慮している。入職時にはオリエンテーションを十分に行い、入居者及び新人職員双方が無理なく慣れるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	近隣にある法人の総合病院で勉強会が頻回にあり、職員は交代で参加している。また、月に1度開催する職員会議時を活用して、管理者が中心となり関心のある内容について勉強している。消防署が主催するAED講習会にも交替で参加している。また、介護福祉士、社会福祉士、ケアマネジャーの資格取得を目指す職員が集まって勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に入会して、ネットワーク作りや勉強会等の活動を行っている。また、姉妹法人に2つのグループホームがあり、意見交換や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決定した利用者の生活歴などの情報は、家族や今まで利用していた介護サービス事業者などから提供を受けて、無理なくサービス利用できるように工夫している。また、ホームの見学をしてもらい、納得の上で利用開始してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活するものとして、食事を共にし、買い物や洗濯、掃除など相談しながら決めている。職員は人生の先輩から所作動作など学ぶものも多く、生け花や大正琴、民話なども教えてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを言葉に表わすことのできない利用者には、家族から情報を提供してもらい、職員は入居者に寄り添って思いを検討し、サービスに反映している。そうしたなかで、最近、寝る前に落ち着かない利用者が、牛乳を飲みたかったのだという事が把握できた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、職員会議で話し合い、職員の意見はプランに反映されている。利用者のニーズをより詳しく把握するために、職員1名が利用者を3名を受け持つ担当制を取っている。また、家族からの要望は面会時のコミュニケーションの中から聞き取り、計画に取り入れ、家族に確認してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が落ち着いていれば、3～6ヶ月に1回介護計画を見直している。入院・退院後など状態の変化があれば、その都度見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物内に認知症対応型デイサービスがあり、デイサービスの行事に参加したり、デイサービスの利用者がホームに遊びに来るなどしている。法人で行っている通所リハや訪問看護の希望があれば、対応していく方針である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣に24時間対応の法人の総合病院があり、協力病院になっている。月1回の定期受診と年2回の健康診断を行っている。その他、家族や本人の希望がある場合には、いままでのかかりつけ医受診の支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居してしばらくし時期を見て、家族と重度化や終末期に関する話し合いを持ち、同意書を取り交わしている。現在、まだ事例はない。また、職員は終末期等の勉強会を行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員一人ひとりが入居者を人生の先輩として尊敬し、尊厳を保つような声かけを行っている。また、個人情報保護に関する取り決めがあり、家族と同意書を取り交わしている。職員もホームと同意書を取り交わしている。個人ファイルは、鍵のかかる戸棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームには1日の生活の流れがあるが、その人のペースで生活できるように、無理強いせずに話し合っ希望に沿うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には、嗜好について聞き取りを行っている。職員も同じテーブルで同じものを一緒に食べ、会話を楽しみながら食事をしている。食後に職員と一緒に食器洗いやテーブルの上を片付ける方がおり、職員はお礼を言っている。また、毎日食事介助に訪れる家族がおり、その方も一緒にテーブルについて介助している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は週に2～3回行っているが、希望により毎日入浴している方もいる。入浴後、家に帰りたくなる方がおり、家族と相談して希望に沿うように入浴後に外出している。硫黄風呂やゆず湯等入浴を楽しむ工夫もしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から情報を得て、昔から楽しみにしていることや趣味などの継続を支援している。大正琴や生け花、習字、カラオケ、晩酌などの支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよい日には、毎日中庭やホームの周辺を散歩して楽しんでいる。最近では、節分の日に地域の神社の参拝に外出し皆で楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自動ドアであり、外から出入りは自由であるが、中からは番号キーで開閉するようになっている。玄関ドアはデイサービスと共有のものであることから、ホームだけの判断で解放できず、家族と相談の上でこのような対応を行っている。天気の良い日で目の届く日は、鍵をかけない取り組みをしている。	○	今後も引き続き安全を考慮しつつ鍵をかけない時間等を増やしていく取り組みを期待したい。また、鍵をかけないケアについて、職員で話し合いをもっていくことに期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防避難訓練を行っている。実施に際しては運営推進会議で報告し、地域に声をかけており、参加して頂いている。災害時対応のフローチャート及びマニュアルが作られており、全職員が周知している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の職員がおり、毎日の食事は専門的に管理している。ペースト状の食事の必要な入居者には提供し、食べられない食材を訴える方には代替食を用意している。また、行事食では希望を聞いて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はどこも広々としており、最近車いす利用となった方も危険なく移動できている。また、トイレも車いすで入れ、2名介助がゆったりできるスペースがある。入居者がくつろぐ場所から職員が働いている台所や中庭、テレビが見え、畳のスペースでは洗濯物をたたんだり、くつろぐこともできる。家庭的な雰囲気十分感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使っていたものは危険なもの以外は何でも持ち込み可能であり、それぞれの個室はその方らしい設えになっている。		